

# 第33回日本農業工学会シンポジウム

## 積極的展開が期待されている日本産農産物輸出技術と戦略

### 開催趣旨

日本農業がこれほど注目されたことが過去にあったであろうか。企業の積極的な農業参入、最新ICTおよびロボット技術投入による安全・安心・効率生産、機能性農産物や植物工場、果ては全農解体まで議論されている。今、まさに日本農業は改革の時を迎えているといっても過言ではない。

一方、世界から日本を見ると、安全・安心で高品質な農業生産プロセスが整いつつあり、国内のみならず海外への輸出も積極的に進められている。日本農産物は、海外では一般に高価であるが、安全・安心・質の高さから富裕層をはじめとする需要がある。

このような現状の下、日本農産物の積極的な海外展開を図るためには、質の高い生産技術とその品質を維持する流通技術、そしてその品物を世界展開するための商品戦略がバランスよく強調し、対象国地域のニーズに合わせた販売戦略が必要である。本シンポジウムでは、生産・流通・戦略そして政策の観点から現状を俯瞰し、世界に打って出る日本農業のこれからについて議論を深めたい。

**日 時：** 2017年10月25日(水) 13:00～16:55  
**場 所：** 東京大学 フードサイエンス棟中島薫一郎記念ホール  
**主 催：** 日本農業工学会  
**協 賛：** 日本産高級果実の超高級品質世界展開技術開発プラットフォーム、食品加工流通ビジネスプラットフォーム

### 講演プログラム

- 13:00～13:15 開催挨拶  
日本農業工学会会長 東京大学 名誉教授 大政 謙次  
農業食料工学会会長 京都大学 教授 近藤 直
- 【講演】
- 13:15～13:50 農林水産物・食品の輸出促進について  
農林水産省食料産業局輸出促進課 課長 中澤 克典
- 13:50～14:20 青果物の品質変動要因と輸出対応の要点  
農研機構食品研究部門 食品加工流通研究領域  
食品流通システムユニット長 永田 雅靖
- 14:20～14:50 ASEAN市場をターゲットにした戦略的ビジネスモデルの提唱  
東京大学 名誉教授 相良 泰行
- 14:50～15:00 〈休憩〉
- 15:00～15:30 農産物大量輸出のための高度品質保持技術  
九州大学大学院農学研究院 教授 内野 敏剛
- 15:30～16:00 EUで品質認証を獲得した日本産完熟大粒イチゴの高品質輸出技術  
宇都宮大学農学部 准教授 柏寄 勝
- 16:00～16:45 パネルディスカッション
- 16:45～16:55 閉会挨拶  
日本農業工学会副会長 東京大学 教授 塩沢 昌